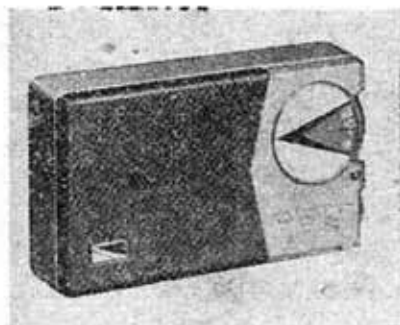


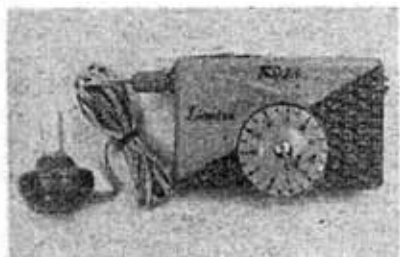
新製品紹介

ラジオ



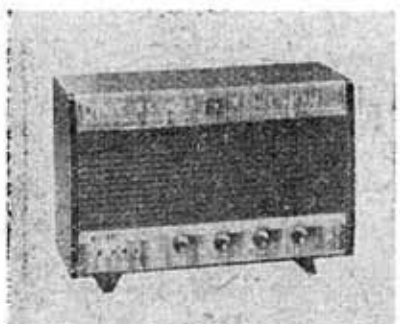
ナショナルのTRラジオ

EB-180 は6石トランジスタ・ポータブルで、自動安全回路、中間周波2段増幅方式を採用。高感度フェライト・アンテナを自蔵している。電池、ソフトケース、イヤホンつきで、
価格 12,800円



村山無線のゲルマ・ラジオ

ゲルマ・ラジオ G-21 はつぎの特長を持っている。1)特別に設計されたハイ・コイルによるミュー同調式で、感度分離がすぐれている。ロッド・アンテナ使用可能。(横浜市神奈川区白幡町118 村山無線株式会社)

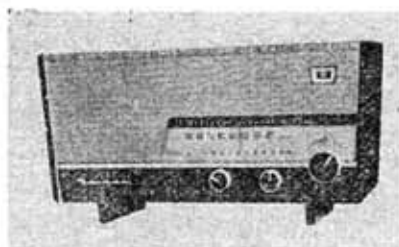


ナショナルのラジオ

EA-750 はHi-Fi 2バンド・オールウェーブで、2ウェイ・スピーカ・システムを採用している。受信周波数器：BC535~1605kc SW3.7~12Mc 使用真空管：6BE6, 6AV6, 6BQ5, 6X4, 6ZE1 感度：BC 60 μ V/50mW SW 89 μ V/50mA スピーカ：低音 8" PDS 高音 2.5" PDS 大きさ：540×54×242mm 価格 18,000円

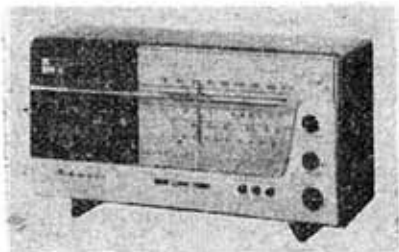
タイハイのキャビ・キット

6R-24A は5球~6球マジック・ブイつきスーパー用キャビで、シャーシは1mm 腐蝕板に高軟ニッケルクロム鍍金と、クワイア仕上げの2重処理をほどこしたもの。バックアップ・ターミナル、ヒューズ・ホルダ、マジック・アイ・ホルダなどを完備している。(東京都台東区浅草島越町1の5 日本硝子工業株式会社)



サンヨーのラジオ

SF-500 型は5球2バンドで、バンド切り替え、フェノ切り替え等、ブッシュ・ボタン方式を採用している。使用真空管は 6BE6, 6BD6, 6AV6, 6AR5, 5MK9, 6ZE1。スピーカは7" パーマネント・ダイナミック。大きさは 520×260×180mm 価格 14,700円



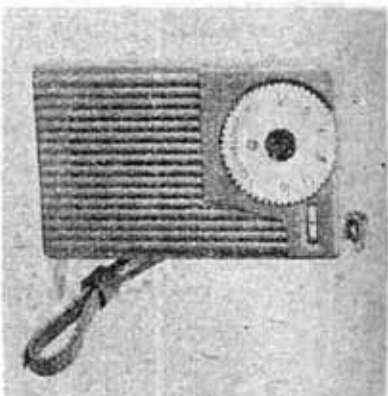
サンヨーのTRラジオ

6C-5 型は6石トランジスタ・ラジオで、トランジスタでは最初の横行ダイアルを採用。またバリスターがついている。大きさは 72×118×32mm。価格は電池別で、12,900円



サンヨーのラジオ

SF-75 型は2バンド・オールウェーブで、2セクション・ダイアル方式を採用している。規格はつぎの通り。使用真空管：12BE6, 12BD6, 12AV6, 30A5, 19A3, 6ME10 受信周波数器：BC535~1605kc SW3.7~12Mc 出力：無負 1W 大きさは 395×156×135mm 価格 9,950円



日立のTR・ラジオ

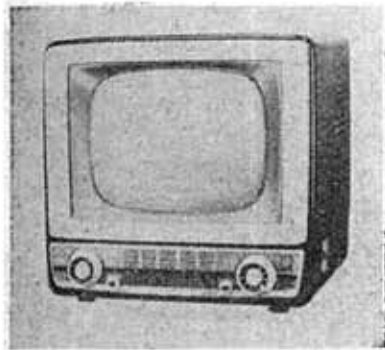
TH-621 は日立から発表されたスピーカー内蔵6石トランジスタ・スーパーで、Yシャフのポケットにも入る小型のもの。おもな規格はつぎの通り。使用トランジスタ：HJ23, HJ22×2, HJ15, HJ17×2, 1N34A。出力：無負 40mW スピーカ：2.5" パーマネント・ダイナミック 寸法：72×113×32mm 価格は電池別で 12,300円。電池つきで 12,500円。いずれも皮ケース、イヤホン1個が付属している。



オンキョーのラジオ

OS-90は小型2バンド・オールウェーブで、規格はつぎの通り。使用真空管:12BE6, 12BA6, 12AV6, 30A5, 35W4 受信範囲:BC 535~1605kc, 5W 3.8~12Mc 出力:最大 1.5W 寸法:210×210×135mm 9,800円

テレビ



シャープのテレビ

TV-420型は14"超遠距離用で、側面スピーカを用いた前面スピーカ式。音声部はプリント配線を採用している。規格はつぎの通り。受信周波数:11チャンネル・ターレット式 受信方式:インターキャリア方式 高周波部:カスコード・チューナ付 中間周波数:映像 27.0Mc 音声 22.5Mc IF 3段 隣接チャンネル・トラップつき。ブラウン管:14RP4-A 真空管:ブラウン管とも 17球 価格 80,200円



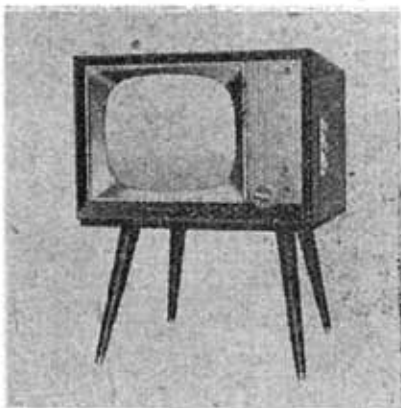
日立のテレビ

FMB-780型は14"家庭用標準型テレビで、特長はつぎの通り。1)最新日立広角メタルバック・ブラウン管使用 2)600mAシリーズの完全トランスレス・タイプ 3)受信中の放送局番号を表示するチャンネル表示ツマミの採用 4)リモート・コントロール・ユニット接続可能 第1~第11チャンネル 価格 77,000円



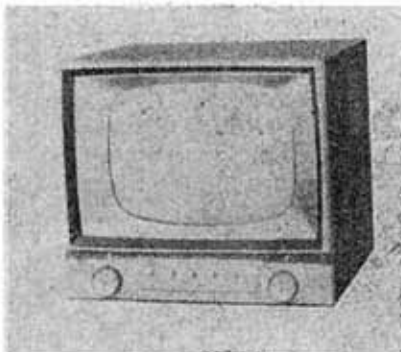
ビクターのテレビ

14T-170型の主な特徴はつぎの通り。1)前面スピーカの採用 2)11チャンネルの実装 3)画質、感度、同時切替装置つき 4)ウイング・アンテナ自蔵 5)リモート・スイッチつきイヤホン使用可能 ブラウン管は 14AHP4-A 価格 78,500円



日立のテレビ

FMB-310Gのおもな規格はつぎの通り。受信方式:インターキャリア方式 受信周波数帯:第1~第11チャンネル 使用真空管:ブラウン管とも16球 使用ブラウン管:14RP4-A 音声出力:2W 価格 79,600円

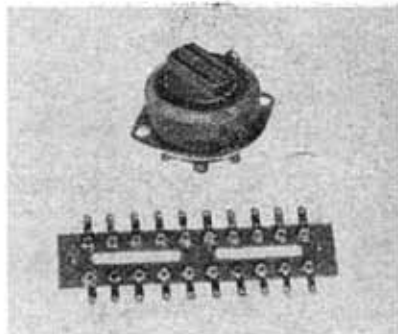


サンヨーのテレビ

17-V1型の規格はつぎの通り。感度:遠距離受像用 カスコード・チュー

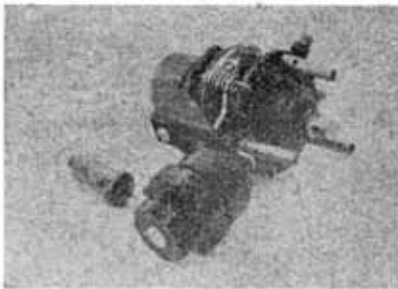
ナ使用 受信周波数:1~11チャンネル 中間周波数:映像キャリア 28.25Mc 音声キャリア 23.75Mc 音声出力:無歪 2W ブラウン管:17AVP4A 価格 99,800円

パワ



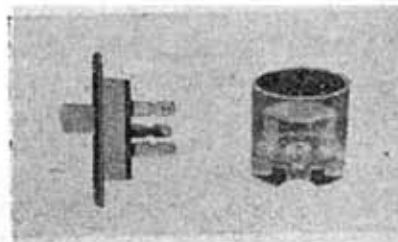
昭和無線の新製品2種

写真は昭和無線から発表された通信機用の厚端子板と特殊ロータリー・スイッチである。厚端子板には特殊鍍金をほどこしてあるので、絶縁度が高く堅牢。ロータリー・スイッチは一回路で3極から20極くらいまでいろいろあり、中央のツマミを回転することによって切かえられる。〔東京都品川区東戸越5~24〕



日立のクライストロン

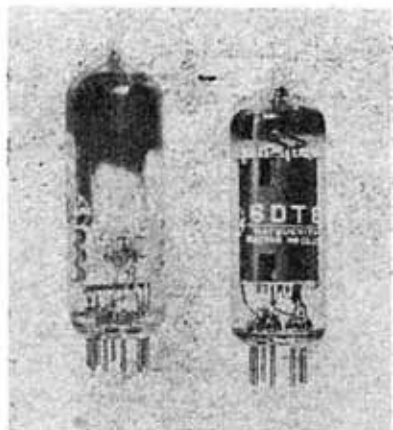
2K41は今日日立が3000Mcレーダー一局部発振器用として防衛庁に納入したもので、規格はつぎの通り。周波数範囲:2,660Mc~3310Mc ヒータ電圧:6.3V ヒータ電流:1A 空胴電圧:300~1250V 空胴電流:15~60mA 格子電圧:-200~+150V 格子電流:最大 25mA 出力:20mW~2.4W 反射電圧:0~-750V



昭和無線の新製品2種

写真右側はテレビ用スタンド・ソケ

ットで、従来のスタンド・ソケットに改良を加え、真鍮カバーで絶縁され、丈夫な埋込み金具でとりつけられている。磁型と鍍型の2種があり、磁型は下部中心よりブロード接続可能、鍍型は上部より接続できる。左側は3極スライド・スイッチで、接触抵抗、耐久力の点ですぐれている。



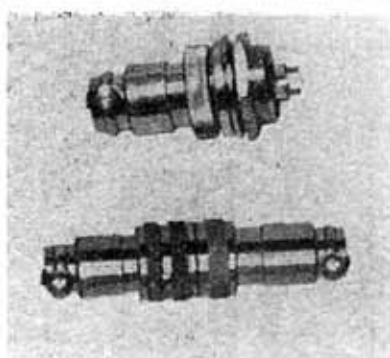
ナショナルの真空管2種

6DA5は従来のマジック・アイとはかなり構造の変わったもので、小型、取りつけが簡単、同調がみやすい等の特長を持っている。6DT6は6AU6とほとんど同じ構造の7ピン・ミニアチエプ型のシャープ・カットオフ5極管で、テレビ用FM検波管として理想的。価格はそれぞれ 600円、550円



ミツミのTR用RF IF キット

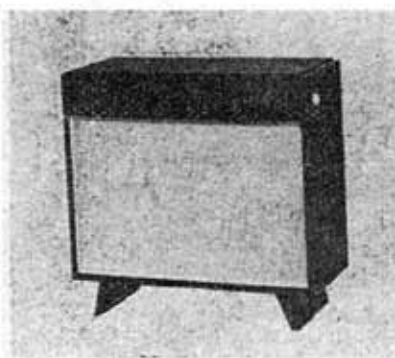
ミツミから写真のようなTR用RF IF キットが発表された。それぞれの規格はつぎの通り。ポリバリ (DVC-2BT) : ANT 最大容量 200pF, OSC 88pF, 外径寸法 28×28×15mm IF T (M型) : コンバータ用 (MA105) 段間用 (MB505) 検波用 (MC505) で、トランジスタは東通工製またはこれと同種のものに適合。アンテナ・コイル : (AL-70) 平角型で幅 15mm 厚さ 7mm 長さ 70mm オシレータ・コイル (OL-261) : プリント配線に最適 インダクタンスは 261μH TR用ソケット (TRS-3) 価格は 1,350円 (東京都品川区大崎本町2の446(49) 5760・8493 三美電機株式会社)



ミヤマの金属コネクタ2種

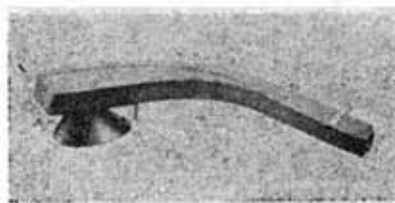
写真上は#33 小型コンセン！で、各種通信機、測定機、増幅器用。直径 15mm、全長 43mm で、取っつけは1枚のナットで締めつけられる。2P、3P、4Pがある。下は#32 小型金属コネクタで、#37 小型金属コンセン！と併用できるように設計されてある。直径 15mm、全長 70mm で、2P、3P、4Pの各種がある。(東京都大田区池上町56 ミヤマ電器K.K)

その他



ナショナルのスピーカ・システム

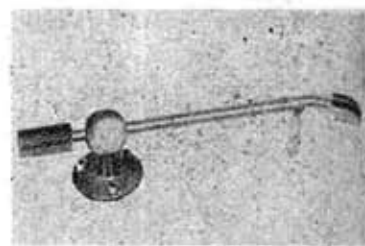
SPS-121は複合型スピーカ12P-X1を採用したスピーカ・システムで、バスレフ型になっている。規格はつぎの通り。再生周波数：40~16000c/s クロスオーバー周波数：2000c/s 許容入力：20c/s VC インピーダンス：16Ω 内容積：172000cm³ 形状：860×880×330mm 価格 43,000円



ナショナルのピックアップ

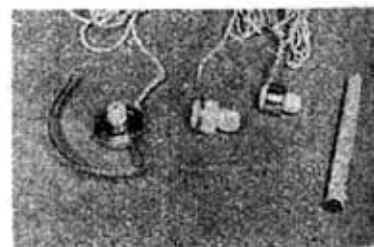
WX-25はLP SP 両用のターンオーバー式で、規格はつぎの通り。LP

は出力1000c/s 負荷抵抗 500kΩ で0.4V 針圧：8g レスポンス：40~12000c/s SPは出力 1.5V レスポンス：40~10000c/s アーム全長：270mm 針先のモーター板よりの高さ：21~36mm 可変 指定取付寸法：オーバーハング8mm コートリッチ：C-106 サファイア：LS-4 価格 1,950円



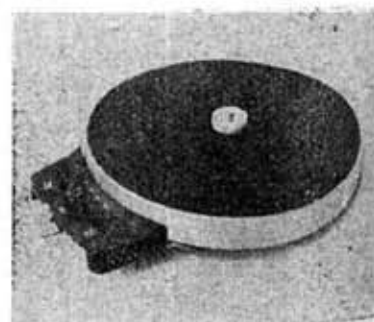
パイオニアのピックアップ

PIE-5000はクロスサポート型ピックアップで、規格はつぎの通り。再生周波数帯域：20~20000c/s 針圧：4~6gr 針先：1ミル・サファイア針交換型 インピーダンス：1000c/s で約 2.3kΩ 負荷抵抗：30~100kΩ 出力電圧：30mV 50mm/sec 全長：275~291mm 重量：230gr 価格 6,000円



川村電器の超小型レシーバ

写真は川村電器製作所から発表された1型、2型、普及型のレシーバ3種である。インピーダンスは 1, 2, 普及型とも 6Ω~5kΩ。大きさは1型が直径12mm 長さ18mm。2型は直径14mm 長さ 20mm。価格未定 (東京都品川区北品川5の485 (44) 8407)



TEACのターンテーブル

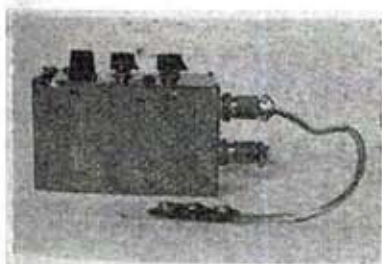
TN-1H 型の特長はつぎの通り。1) ドライブ方式は特殊リムドライブで操作が簡単 2) 特殊のヒスタリシス

インダクタンス・モーター使用 3) ターンテーブルの慣性モーメントが大きい
1) ターンテーブル面上の軸には18-8ステンレス鋼を使用、定格はつぎの通り、ターンテーブル: 12" 軽合金鋳物 回転数: 33, 45, 78 RPM 回転ムラ 0.2%以下 ターンテーブル・フラッタ: ±3%, SN比: 各スピードとも1000%50mm/sec 重量: 4.6kg
価格14,700円 (東京都墨田区千歳町2-6-16東京電気音響株式会社)



CEC のフォノ・モーター

R-115 は R-110 シリーズの改良高効率型として完成されたもので、R-110と同様あくまでローコスト・ハイファイを目標としている。規格はつぎの通り、電力: 10W, 4極インダクション・モータ使用 回転数: 33, 45, 78 速度調整範囲: ±10% ワウ: 0.3% S/N: 40dB ターン・テーブル: 10" 単板プレス 1kg 価格 6,500円



小川電子工業のユニバーサル・アンプ
写真は小川電子工業から発表された最大出力6Wの全トランジスタ・アンプで、入力切換器が付属され、500Ω, 50kΩ, クリスタル・ピックアップ、マイクと携帯用ラジオの出力回路に適合するように設計されている。大きさは120×65×60mmという小型のもの。スピーカの適合インピーダンスは8~15Ω。電源としては専用の AM-14CE を使用している。価格は専用コネクタつき電池別で 29,000円 (東京都新宿区上落合1-515)

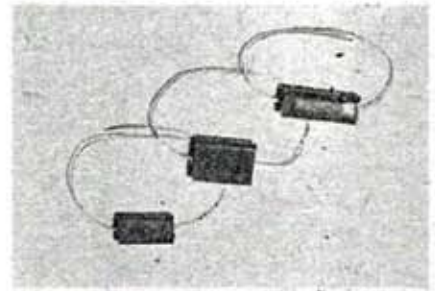
このページは国内メーカーの新製品掲載です。掲載は原稿先着順、取捨は編集部に一任されています。

TR ラジオ用として初登場の、超小型、高性能、安価な マイラー・コンデンサ

向山 猛

近ごろ大きくクローズアップされてきたトランジスタは、ご承知のようにいままでの真空管にくらべて非常に小さく、またその消費電力は非常にわずかなものでたりするという高効率のため、それに使用される部品も当然超小型化が要求されるようになってきました。

従来の真空管式ラジオは相当小型のものでも、なおシャーシに若干の余裕があるように感じられますが、トランジスタのポータブル・ラジオに至っては、縁のはいでる隙間のないほどぎりぎり部品がかたまってプリント・シャ

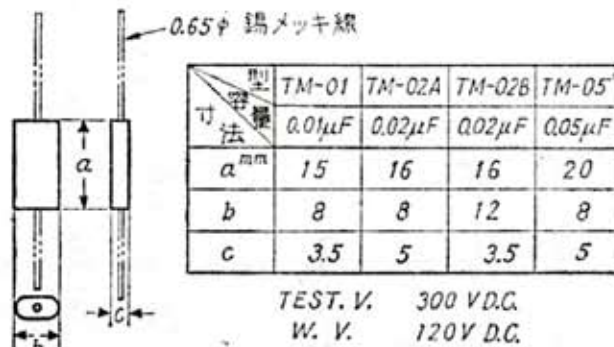


マイラー・コンデンサの外観
速試作したところ、いろいろすぐれた特徴を持ったコンデンサであることがわかりました。

その大略を列記しますと、

1. 超小型にできること。
2. 非常に絶縁のよいこと。
3. プラスチックで成形してあるため丈夫なこと。
4. 容量誤差の少ないこと。
5. 温度特性がよいこと。
6. 価格が安いこと。

超小型にできる理由はコンデンサ・エレメントに「マイラーC」



第1図 - マイラーコンデンサの寸法と容量

ーシについている感じで、部品が小型になればそれだけラジオも小型になるというように、小型ラジオの極限にきたような感じを受けます。

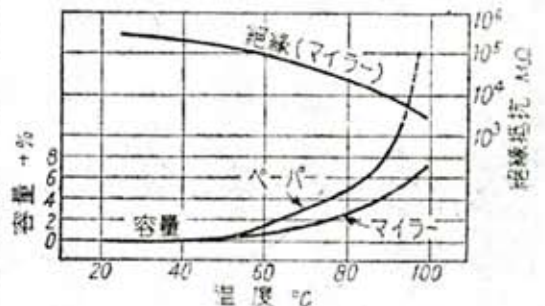
現在小型の極限にきていると思われる部品をあげてみますと、スピーカ、バリコン、IFT、AFT、抵抗などがありますが、このほかに重要な部品としてはまだアンテナ、固定コンデンサ類、ポリウムなどがあります。特に固定コンデンサは数多く使われるので、この小型化は当然要求のもっとも多いものです。

従来小型コンデンサの代表的なものに、セラムック・コンデンサがありましたが、これもたくさん使うとなると、価格もかさみ、かつ容量の誤差が大きく、またもろくて割れやすいなどの欠陥がありました。

しかし最近米国デュボン社から出されているポリエステル・フィルム「マイラーC」が、コンデンサの誘電体として非常に優秀であることがわかり、早

を使用したほかに、リード線の特種溶接に成功したからです。

つぎに温度、湿度特性の実験として、マイラー・コンデンサを摂氏80度の湯のなかに約5時間浸してとり出したその直後の容量は、数%以内の変動、絶縁は平均20000MΩ以上を示し、しかも自然冷却、乾燥後の特性はまったく元の通りに復しました。容量誤差はペーパー・コンデンサより少



第2図 - マイラー・コンデンサの温度特性

く、一般に10%以内で、5%のものも大量に製造可能です。価格も多分在来のペーパー・モールド・コンデンサと同等いどころ、それ以下になると思います。